

**公益財団法人みちのく未来基金**  
**代表理事および業務執行理事業務報告**  
 (報告対象期間:2020年10月~2021年9月)

**【奨学金給付事業関連】****1. 奨学金の給付状況**

第2期生から第10期生までの奨学生に対し、奨学金の給付を実施いたしました。

**① 給付人数**

第10期給付対象人数および第11期生の給付申請状況は以下の通りです。

◆第10期給付対象者数 (単位:人)

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	293	92	163	18	20
国公立大学	33	13	17	0	3
私立大学	199	60	113	13	13
短大・専門学校	61	19	33	5	4

**【内訳】**

		合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	2期生	1	0	1	0	0
	3期生	1	0	1	0	0
	4期生	1	1	0	0	0
	5期生	8	4	4	0	0
	6期生	9	3	4	1	1
	7期生	54	17	31	4	2
	8期生	62	21	31	5	5
	9期生	84	25	44	5	10
	10期生	73	21	47	3	2

※2021年9月末現在

2021年9月末現在、第2期生から第10期生まで、奨学金給付を行っている人数は上表の通りで、合計293名です。なお、2020年9月から2021年9月末までに、自主退学等の理由により、9名について給付を停止しました。

**基金発足時から2021年9月末現在、第1期生から第10期生までの延べ給付人数は974名です。**

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	974	326	532	59	57
1期生	96	36	53	6	1
2期生	126	37	79	6	4
3期生	111	46	50	10	5
4期生	104	31	63	2	8

5期生	93	37	43	8	5
6期生	108	40	51	6	11
7期生	89	24	55	7	3
8期生	85	28	43	6	8
9期生	89	26	48	5	10
10期生	73	21	47	3	2

[第11期給付者数見込み]

第11期については2022年3月に84名が卒業予定で、第11期生としての進学希望者が78名いるため、第11期の給付者数は最大で287名となる見込みです。

② 給付予定金額

第11期奨学金給付予定金額

第3期生への年間給付予定金額	1,000千円
第4期生への年間給付予定金額	1,000千円
第6期生への年間給付予定金額	7,000千円
第7期生への年間給付予定金額	4,000千円
第8期生への年間給付予定金額	57,000千円
第9期生への年間給付予定金額	66,000千円
第10期生への年間給付予定金額	74,000千円
第11期生への年間給付予定金額	90,000千円
給付予定金額総計	300,000千円

第11期の給付予定金額は300,000千円になる見込みです。この3億円の試算をベースに年間の資金繰りを行ってまいります。

2. 第11期生の募集状況

2021年4月より、第11期生の募集を開始いたしました。

◆第11期奨学金給付希望者数（単位：人）

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県外
合計	78	28	35	5	10
国公立	17	6	4	2	5
私立	38	15	16	3	4
短大・専門	23	7	15	0	1
志望校未定	0	0	0	0	0

※上記の表は9月末時点での奨学金給付希望者で、合格後に奨学金の給付が開始されます。

基金の調査では、2022年春高校卒業予定の震災遺児は89名で、そのうち進学希望者は76名です。また、2021年春以前に高校を卒業し、現在浪人中の進学希望者が2名いるため、第11期生としての奨学金給付希望者数は合計78名となります。

### 3. 第12期生以降の対象者の把握

厚生労働省が2015年9月時点の震災遺児の居住地状況を把握したデータから、全国の震災遺児の総数は1,782名(うち岩手・宮城・福島の被災3県以外は171名)となっており、基金で独自に被災3県をはじめ、全国の該当する行政窓口、教育委員会、中央共同募金会(赤い羽根)等、様々な機関へのアプローチを実施した結果、第12期生から第20期生まで合計295名(うち3県以外は31名)について、支援予定者として把握いたしました。

### 4. 選考委員会の開催

#### 「第11期生選考委員会」

内閣府の公益法人(助成型)の認可要件として、奨学生の認定について公平性・公正性の担保という観点から選考委員会の設置が求められております。これに基づき開催を検討いたしましたが、コロナ禍であるため書類審査に変更いたしました。

#### ・選考委員

杉 昭重	元福島県教育委員会教育長	・	元福島県立安積黎明高等学校長
庄司 恒一	元宮城県高等学校長協会長	・	元宮城県仙台第二高等学校長
横田 昭彦	元岩手県立高田高等学校長		

第11期奨学金給付対象者(2022年4月からの奨学金給付開始者)について、東日本大震災の遺児であることの確認、および進学先の承認を諮り、了承をいただきました。

### 5. 年次面談の実施

2020年9月から11月にかけて、東京・仙台・盛岡の3会場において、みちのく生(奨学生)全員との面談を実施いたしました。この面談は、基金スタッフが全てのみちのく生の話を聴ける年に一度の機会であり、学生生活の様子や困りごとなどを聴き、奨学生の心のケアにつなげることを目的に、基金のもっとも重要な活動となっています。昨年はコロナ禍ということもあり、直接面談かオンライン面談のみちのく生が選択できるようにしました。約半数がオンライン面談を選択しました。オンライン面談はコロナの感染を防ぐ、面談時間の制約が少ない、場所を選ばない等のメリットがあります。一方では、話しているみちのく生の雰囲気は対面の場合より捉えにくい等のデメリットも感じました。

また、2021年9月には東京会場での面談を行いました。今回も新型コロナウイルスの影響を踏まえて対面とオンラインとの併用とし、みちのく生の希望に沿った形式で実施いたしました。

### 6. 「卒業生を送る集い」「第9・10期生を迎える集い」

2020年に「第9期生の集い」を中止したため、2021年は2年間の合同としてオンラインで実施いたしました。3月19日に大学・専門学校を卒業する集い、4月18日に入学する新みちのく生の集いと2回に分け、今回はオンラインということで、みちのく生に限定しての開催といたしました。

2022年3月の「第11期生の集い」は是非対面で行いたいと考えています。

### 7. 夏の交流イベント

5月と6月にバーベキューイベントを東京と仙台で行う予定でしたが、まだ対面でのイベントは不可能と考え、代替として6月26日にクイズやみちのく生同士の会話ができるイベントをオンラインで実施しました。また8月19・20日には「夏の集い」を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止とし、それに代わる日帰りイベントを計画中です。

## 8. みちのく未来基金 SNS の活用

2020年9月より、みちのく生と基金スタッフ間の連絡ツールとして新たに「エアリー」というアプリケーションを導入いたしました。約1年使用してまいりましたが、みちのく生との連絡が非常に取りやすくなり、十分に活用できております。

### 【法人運営関連】

## 9. 寄附金受入状況

2020年9月末時点で奨学金給付指定の残高が約19億円となり、今後15年間で給付予定の試算額に達しました。この状況を受け、2021年2月から5月にかけてサポーターの皆さま全員に、御礼とご報告を含め寄附停止・減額の案内文をお送りしました。詳細について別紙①にてご説明いたします。

### 寄附金内訳(第10期2020年10月1日～2021年9月30日迄累計)

#### ■奨学金給付費用指定寄附金

	金額(千円)	金額比率	件数	件数比率	人数・法人数等	人数・法人数等比率
個人	69,004	49%	8,623	96%	1,507	89%
法人・団体	70,519	51%	404	4%	177	11%
計	139,523	100%	9,027	100%	1,684	100%

#### ■運営費用指定寄附金(スタッフ派遣4社からの定期寄附を除く)

	金額(千円)	金額比率	件数	件数比率	人数・法人数等	人数・法人数等比率
個人	1,110	14%	4	18%	4	29%
法人・団体	6,693	86%	18	82%	10	71%
計	7,803	100%	22	100%	14	100%

## 10. 第10期決算

第1号議案文書に基づきご説明いたします。

## 11. 広報活動

### ・「みちのく未来通信」の発行

寄附者や奨学生等の基金関係者に対して、みちのく未来基金の現状をお伝えする広報紙「みちのく未来通信」を、2020年9月(第26号)、2021年1月(第27号)、6月(第28号)、9月(第29号)に発行いたしました。

### ・基金ホームページの改訂

基金のホームページについては随時改訂を行っております。

### ・Facebook の利用

月1～2回の頻度で記事の更新を行い、閲覧回数を増やすようにしております。奨学生の閲覧も多く、交流が深まるきっかけともなっています。

## 12. その他特記事項

### ① 「感謝の集い」の開催

2021年10月21日をもってみちのく未来基金の活動が丸10年を迎えることに伴い、設立から現在に至るまで活動を支えてくださった方々を招待して、10月24日に「みちのく未来基金 感謝の集い」を東京・品川で開催いたしました。

### ② 基金スタッフの働き方の変更

新型コロナウイルス感染防止を目的に、マスクの着用と合わせ2020年4月よりスタッフの交代出勤、在宅勤務、時差出勤を行っています。現在は10時から16時までの出勤時間とし、出勤者は5名以内でその他は在宅勤務としております。

## 13. みちのく未来基金の運営スタッフ体制について

前回の評議員会以降、スタッフ派遣企業の定期異動等により、下記のメンバーの変更がありました。

- ① カルビー株式会社から派遣されていた嶋瀬紀子とカゴメ株式会社から派遣されていた武田康嗣が2021年3月に基金を離れました。
- ② ロート製薬株式会社より派遣されていた奈良朱里が2021年6月に基金を離れました。
- ③ ロート製薬株式会社より新たに佐々木崇吏が2021年6月から基金スタッフに加わりました。
- ④ ロート製薬株式会社より派遣されていた原田直信が同社を退社し、2021年7月からみちのく未来基金と業務委託契約を締結いたしました。
- ⑤ カゴメ株式会社より派遣されていた小野大騎が2021年10月に基金を離れました。
- ⑥ カゴメ株式会社より今吉成和が2021年11月から再度基金スタッフに加わりました。

2021年11月末時点のみちのく未来基金事務局のスタッフ構成及び業務担当は以下の通りです。

### <みちのく未来基金事務局>

長沼 孝義	: 代表理事
竹中 俊之	: 業務執行理事
佐藤 美甫	: 内務業務(総務経理事務)
齋藤 雅子	: 内務業務統括
北川 宣人(エバラ食品工業株式会社)	: 学校訪問統括(福島県・宮城県担当)
伊藤 健人(カルビー株式会社)	: 学校訪問(岩手県担当)
佐々木 崇吏(ロート製薬株式会社)	: 内務業務(奨学金管理)
今吉 成和(カゴメ株式会社)	: 学校訪問

以上